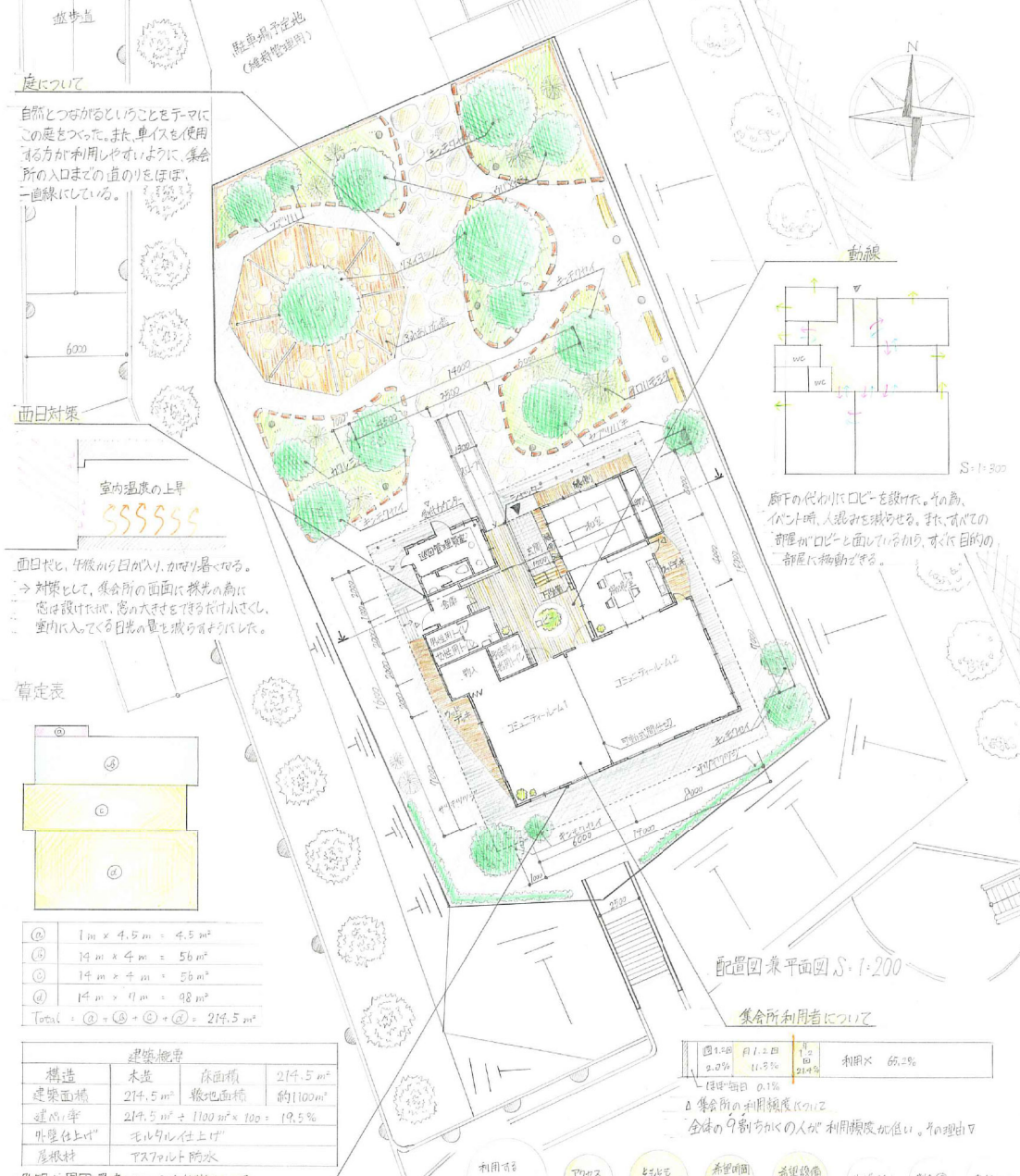


OPEN SPACE × NATURE 自然とつながる集会所



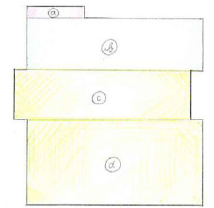
庭について
自然とつながるということをテーマにこの庭をつつた。また、車イスも使用する方が利用しやすいように、集会所の入口までの道のりをほぼ、一直線にしている。

西日対策
室内温度の上昇
SSSSSS

面日差し、屋根から日が入り、加わり暑くなる。
→対策として、集会所の面日に採光の為に窓は設けられ、窓の大きさを抑え、室内に入ってくる日光の量も抑えられた。

廊下の代わりにロビーを設けた。その際、イベント時、人混みを減らせる。また、雨などの都合がロビーと面しているから、すぐ目的の部屋に移動できる。

算定表



①	1m × 4.5m = 4.5㎡
②	14m × 4m = 56㎡
③	14m × 4m = 56㎡
④	14m × 4m = 56㎡
合計	① + ② + ③ + ④ = 214.5㎡

建築概要	
構造	木造
建築面積	214.5㎡
延床面積	約1100㎡
延床率	214.5㎡ ÷ 1100㎡ × 100 = 19.5%
外壁仕上げ	モルタル仕上げ
屋根材	アスファルト防水

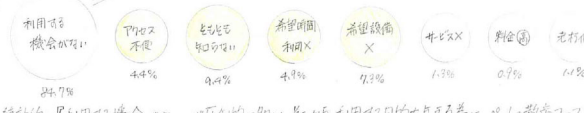
外観と周囲環境とのつながりに
現在の集会所のファサードは屋根の外観は、周囲の環境とよく馴染んでいると考えた。そこで、現在のファサードは屋根の外観を模して、おなじみに見えるオープンな空間を設けた。ロビーは高天井の屋根を高くし、そのことで、採光は自然とオープンな空間の周囲環境とつながり、利用者の心も落ち着かせる。

配置図 乗平面図 S: 1:200

集会所利用者について

利用×	65.2%
利用○	21.4%
利用△	11.3%
利用◇	1.1%

△集会所の利用傾向は、全体の9割が利用傾向低い。その理由



→統計的に利用可能機会がないが、利用目的は、利用目的の年々高くなる。利用目的の年々高くなる。利用目的の年々高くなる。利用目的の年々高くなる。



△集会所の外観パース

CONCEPT

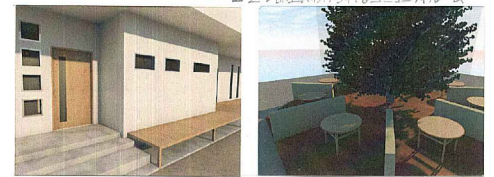
人と人の関わり合いが自然に生まれる空間が今こそ必要だと思う。そこで、「自然」とつながり、「自然」とつながる集会所を提案する。
この集会所では、廊下の代わりにロビーを設けた。そのことでロビーを中心に利用者は移動するので、「自然」と利用者がロビーに立ち止まり、会話ができるようにしたい。このような設計にした。また、この集会所の入口には扉が存在しない。だから、利用者はスムーズに入ることができると同時に、中の様子が見えやすいので、若い人にとって集会所は利用しにくい場所という概念を取り除くことができると考えた。こうすることで、防犯面では、防犯面として、オープンな空間を創るために、シャッターで戸締りをするようにした。だが、レールがあるオープンな空間が阻害されてしまう。だから、レールも戸締りの時に地面にはめ込み、シャッターを開けられるようにした。そして、庭にはソメイヨシノやキンモクセイ、ヤブタバコ、イロハモミジなどを植えているので、あまから季節を感じられる。また、庭に「あかい庭場」として休憩場を設けた。ここでは、ソメイヨシノを中心にウッドデッキがあり、高さ90cmの壁で仕切られた空間がある。ここで、人々が集まり、自然を感じられる。この集会所が、これまで以上に親しまれることを願っている。



△2つ部屋にかけられるコニエテイルーム



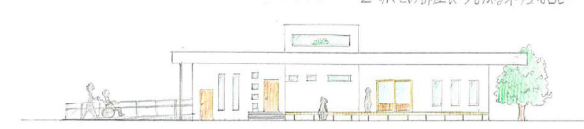
△すべての部屋に広がる木の香り



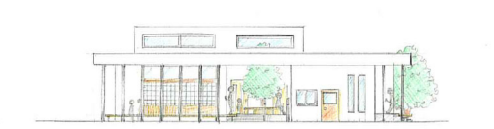
△季節を感じられるウッドデッキ
△ふれあいの広場



断面図 S: 1:200



南西立面図 S: 1:200



北西立面図 S: 1:200